



Bluetooth LANはこんなに便利



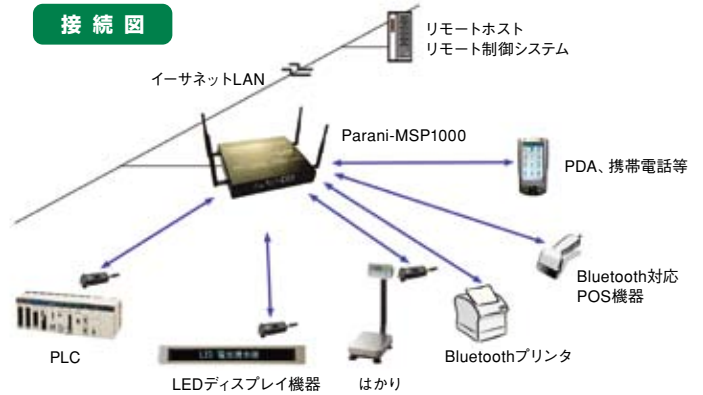
シリアル機器からのデータ（計測データ、表示データ）を、LAN上の機器とダイレクトにつなぐケーブルを使わないデータ通信です。

Q:こんなことはできますか？

- Bluetooth対応ハンディターミナルでLAN構築したい（アクセスポイント機能）
- Bluetooth対応ハンディターミナルの通信距離を伸ばしたい（リピーター機能）
- シリアル機器のケーブルを無くし、シリアル通信のハブとして使いたい（シリアルHUB機能）
- 1台から複数の機器へ同時に一斉データ送信したい（Vertex機能）
- Bluetooth対応のパソコン・PDA・スマートフォン等でインターネットアクセスしたい（アクセスポイント機能）

A:はい、できます。

接続図



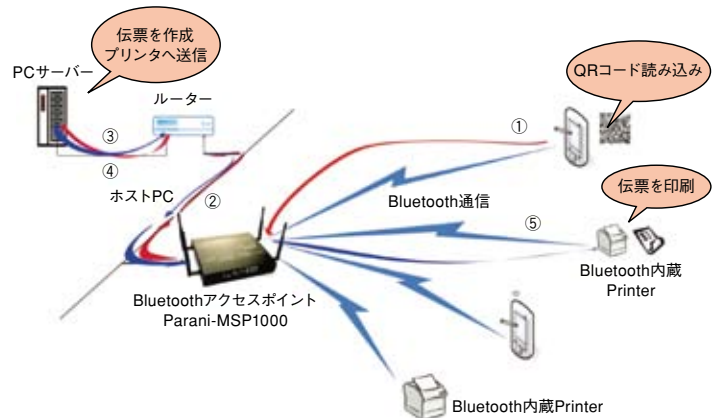
ソリューション例

POSシステムとBluetoothアクセスポイント

低電力消費で低コストなBluetooth対応のハンディターミナルやPDAのデータ入出力をBluetoothでLAN接続したい。

データの流れ

- ① ハンディターミナルで読んだデータをBluetoothワイヤレス送信
- ② Parani-MSP1000経由でデータを受け取る
- ③ LAN上のサーバーへデータ送信
- ④ データベース検索後、そのデータをParani-MSP1000へ
- ⑤ Parani-MSP1000からハンディターミナルへ、またはBluetoothプリンタで印刷

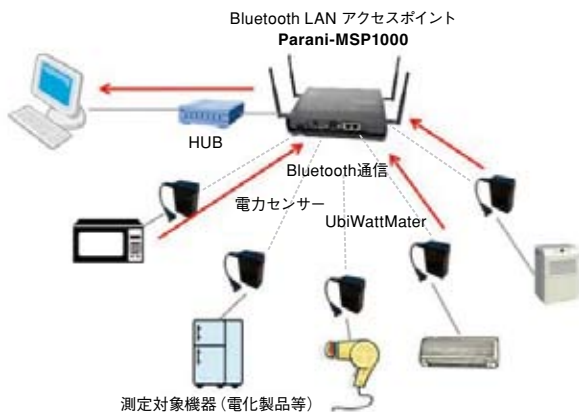


使用Bluetoothプロファイル: SPP Parani-MSP1000のメリット

通常、IPネットワーク用に新しくアプリケーションを開発する場合、ソケットを使用します。しかし、PC（サーバー）に、Serial/IP（Parani-MSP1000にバンドル）というアプリケーションを使用すれば仮想COMポートを生成することにより、シリアル機器で使用していたローカル（LANに対応していない）アプリケーションをそのまま使用することもできるので、システム構築する幅が広がってきます。

導入事例①

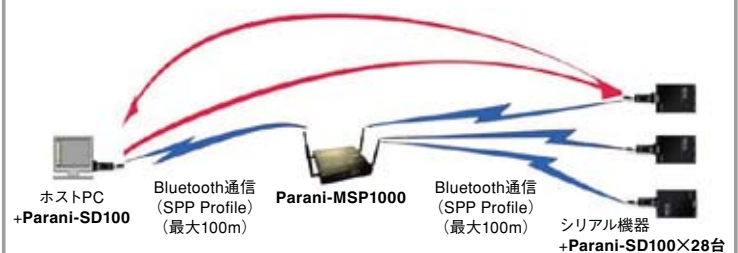
家電電力センサのデータを一括収集、PCへ送信



それぞれのセンサーから計測データがBluetoothで送信され、PCに収集されます。

導入事例②

ターミナルサーバーのようにケーブルを使わないシリアル通信ハブとして使用



ホストPCとシリアル機器との間にシリアルケーブルを使わずにデータの送受信ができます。